

■8月23日

MRJ、1号機納期延期、2017年第2四半期へ

三菱航空機は22日、開発を進める小型旅客機「MRJ」の1号機の納入を延期すると発表した。開発期間の延期は3回目となる。飛行機で用いる部品は、設計・製造のプロセスを明文化し、それに則った作業が行われれば正しいものができあがるか証明する必要がある。その過程で想定以上に時間がとられ、部品メーカーの生産が遅れた。

従来は2015年度半ばから後半としていた予定を17年第2四半期(4～6月)に改めた。年内としていた初飛行も15年第2四半期(4～6月)とする。

ロイターによると、MRJは、70-90座席の小型ジェット旅客機。三菱航空機は、ANAホールディングスや米トランス・ステーツ・ホールディングス、スカイウェストから165機を受注したほか、オプションとして160機の契約を結んでいる。初号機を受け取る予定のANAは「小型機ネットワークの見直しや機材計画の修正など、過去2度の遅延に対して行ってきた以上の対応を行うことになる」とコメント。その上で具体的な影響、対策は今後、精査し、将来的な事業計画への影響が出ないよう、対応していくとしている

(日経)8/22

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL220OJ_S3A820C1000000/ \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL220OJ_S3A820C1000000/)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL220OJ_S3A820C1000000/\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFL220OJ_S3A820C1000000/)

(ロイター)8/22

[\[http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE97L05N20130822\\)\]\(http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE97L05N20130822/\)](http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE97L05N20130822 (-></p></div><div data-bbox=)

エアアジアX(LCC)、関西線増便、2014年にはタイ・インドネシア線も開設

エアアジアXのアズラン・オスマンラニ最高経営責任者(CEO)は22日、大阪市内で記者会見し、関西空港とクアラルンプールを結ぶ路線を現在の週4便から増便し、11月25日から毎日運航すると発表した。

関西とタイやインドネシアを結ぶ路線を来年初めにも開設する方針を示した。関西、羽田に続く中部空港への就航については「来年以降で考えている」と述べた。好調な利用を受け、日本への攻勢を強める。

エアアジアXが関西線を増便するのは、2011年11月に就航して以来、初めて。関西空港の24時間使える利便性を評価した。

(中日新聞)8/22

[http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013082201001588.html \(-> http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013082201001588.html\)](http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013082201001588.html (-> http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013082201001588.html))

日航、松山—福岡線増便・一部機材大型化、リンク就航を前に

日航は21日、2013年度冬季ダイヤ(10月27日～14年3月29日)の路線便数計画を発表した。そのなかで、来年1月7日から松山発着の福岡線を1往復増便して1日8往復とする一方、鹿児島線を1往復減便して1日1往復とする。

松山—福岡線は、増便に加え、8往復中2往復で36人乗りから74人乗りに機材を大型化する。

愛媛新聞によると、同路線では地域航空会社リンク(福岡市)が14年3月上旬の就航を目指しており、日航松山支店は「新規就航の影響も若干あるが、4～7月の平均搭乗率が6割強と利益を生んでいることが決め手」としている。一方、鹿児島線は、4～7月の平均搭乗率が3割台と低迷し、同支店は「観光利用がうまく取り込めなかった」と説明。減便に伴い14年1月7日から松山発は午後3時5分だけになる。

(愛媛新聞)8/22

[http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130822/news20130822578.html \(-> http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130822/news20130822578.html\)](http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130822/news20130822578.html (-> http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130822/news20130822578.html))

日航、植木社長、客室乗務員の正社員採用は「検討課題の一つ」

(時事ドットコムによると)

日本航空の植木義晴社長は22日、客室乗務員の採用を契約社員から正社員に変更することについて、「検討すべき課題の一つだ。いろんな可能性を探りたい」と述べた。東京都内で記者団の質問に答えた。

日航は1995年度から客室乗務員を契約社員で採用、3年経過すれば正社員に登用している。植木社長は「現在いる客室乗務員の半数が契約社員で入社し、管理職(になった人)もいる」と説明。その上で「今のところ(契約社員制度は)企業価値の最大化に貢献している」と語った。

全日本空輸は、客室乗務員を日航と同様に契約社員として採用している。しかし、優秀な人材を確保するため、2014年度から正社員採用に切り替えることを決めた。

(時事ドットコム)8/22

http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013082200605 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013082200605)

日航、ボーイング787投入路線拡大、バンコク、シドニー線へ

日航は21日、下期路線計画を発表した。その中で、ボーイング787の新規投入路線を、バンコク・シドニー線へ拡大することを明らかにした。

バンコク線は12月2日から、週4便を、シドニー線は12月1日から機材変更を行う。

(JALプレスリリース)8/23

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201308/002601.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201308/002601.html>)

セントレア、LCC専用ターミナル建設、ANAHDの路線計画で検討

中部国際空港は、LCCの就航拡充などに向けた新ターミナルビルの建設について、ANAホールディングスが9月下旬に予定している新路線などの計画発表を待って、整備計画を検討する方針を示した。建通新聞が報じた。

(建通新聞)8/22

http://www.kentsu.co.jp/webnews/html_top/130821300055.html (->

http://www.kentsu.co.jp/webnews/html_top/130821300055.html)

鹿児島県、上海線維持政策、職員研修事業、10月以降事業費計上を中断

鹿児島県は、中国東方航空による、鹿児島—上海線の運航維持のため、職員らを上海に派遣する研修事業について、10月以降の事業費を計上しない方針を決めた。県幹部は「路線維持に必要な50%以上の搭乗率を確保できる見通しが立ち、当初の目的を達した」としている。ただ、搭乗率が再び低下すれば、派遣が再開される可能性もある。読売新聞が報じた。

当研修事業は、7～9月分の事業費を3400万円とした修正予算案が県議会で可決され、今月21日までに民間を含めて計5陣で176人が派遣されている。

なお、中国東方航空によると、5月が32.2%、6月が46.3%と低迷していた平均搭乗率は、7月に58.8%まで上昇した。

(読売新聞)8/22

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20130822-OYS1T00296.htm> (-> <http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20130822-OYS1T00296.htm>)

下地島空港、利活用検討会、5つの利活用案を基軸に

宮古島市にある下地島空港の利活用をめぐり、県は「宮古圏域空港の利活用に関する検討会議」を今月末にも発足する。有識者や県の関係課などで作る「下地島空港利活用検討協議会」が、実現可能性があると評価した五つの利活用案を基軸に据え、県が14年度以降に取り組む具体的な内容を話し合う。

また一方で、5案が全て実現できなかった場合も想定。並行して空港機能を宮古島、下地島の両空港いずれかに集約することなども検討する。

五つの利活用案

(1)航空会社のパイロット訓練(2)研究機関や航空機メーカーによる飛行試験(3)小型人工衛星発射ロケット搭載航空機の離着陸拠点(4)宇宙旅行者の事前訓練など商業宇宙港(5)富裕層をターゲットにしたプライベートジェットの離着陸拠点

(沖縄タイムス)8/22

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-08-22_53191 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-08-22_53191)

中国、LCCの発展支援策を検討

(財形新聞によると)

中国の航空業界は近く、2004年の民間開放以来の「第2の春」を迎える可能性がある。中国の航空当局は今日5日の会議で、格安航空会社(ローコストキャリア:LCC)の発展支援策を下期に定める方針を固めた。LCCの発展によって中国の航空市場は一段の拡大が期待されている。

地方紙「京華時報」(21日付)が報じたもので、中国の航空業界では燃料費など固定費の比率が高いことから、LCCが育ちにくい環境にあるという。その最大の要因として、ジェット燃料を国営の中国航空油料集団から購入しなければならないことが指摘されている。こうした状況に対し、上海拠点のLCC春秋航空は、着陸料や施設使用料の引き下げなどを求めている。

一方、国営航空の一角である中国東方航空によると、世界の航空市場におけるLCCのシェアが25%を超えているのに対し、中国でのLCCシェアは5%に満たない。LCCの成長余地は依然として大きく、海外からの参入も増えている。先の京華時報によると、豪ジェットスター、韓国ジンエアー、シンガポールのタイガー・エアウェイズなどLCC18社が中国線を運航している。

(財形新聞)8/22

<http://www.zaikei.co.jp/article/20130822/147067.html> (-> <http://www.zaikei.co.jp/article/20130822/147067.html>)